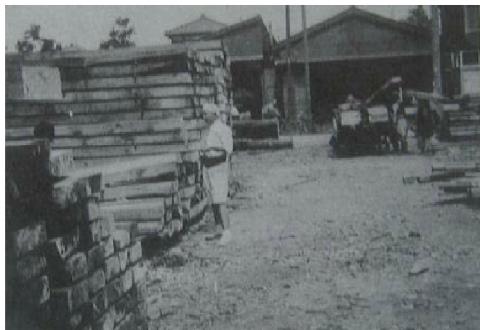


米沢から、不況突破のヒントを貰った。先ず米沢の駅に降りて驚いたことには、どこをむいても「天地人」一色である。ゴールデンウイークのこの時期には、毎年上杉祭りが開催され、甲冑武者行列、市内を流れる松川の河原で、上杉、武田の川中島の合戦そして、上杉謙信と武田信玄の大将同士一騎打ちなどだ。もともと、上杉ゆかりの地上杉神社、松岬神社、上杉廟など歴史のある土地柄だ。しかし、今年は一段と熱がこもっており、なんとしても、直江兼継のご威光、上杉家のお力を借りて米沢を盛り上げたい、そんな、意欲が強烈に感じた。伝国の社「米沢上杉博物館」では、平成21年1月～22年11月まで一年と10ヶ月にわたり、「米沢 愛と義のまち 天地人博」と称して上杉にまつわる展示が行われている。私も、視察したが実によく出来ており当時の上杉家の立場と時代背景がよく理解できた。土曜日の午後の雨のなか、大型観光バスは駐車場いっぱい、場内は大勢の見物客でにぎわっていた。タクシーの運転手に聞くと、例年上杉祭りには、米沢人口と同数の、9万人が訪れる。今年は事前の調査で、30万人の人出が予想されること。川中島の合戦には、7千人分の桟敷を用意したことである。町の人、お店の人も、全て「天地人」「愛」の前立て お土産にも、マスコットにも「天地人」が使われている。全市をあげて「天地人」一色である。米沢人は、この不況をなんとしても、ご先祖の威光を拝借して、盛り上げようとしている。たいした根性とお見受けした。之に比べて東京オリンピック招致活動の、盛り上がりの無さはなんだろうか？東京人はもっと、頑張らねばならない、米沢人のつめの垢を煎じてはと思う次第だ。事を成すには、何事も、成し遂げようとする熱意が大前提だ。心して、先ず成し遂げようとする熱意と、熱意を冷ますことなく、成すまで、継続することだ。米沢人に学んだ不況突破のヒントである。 終わり

150号 細田の歴史－1 ルーツ

細田木材のルーツは、創業者であり先代社長の、父細田 三郎が、兄伊東主税が経営の、塩浜木工所、今の平住製材工業（株）で修業を終え、昭和6年11月3日独立した。



最初の店は、城東区砂町（現在の江東区南砂）仙氣稻荷裏にある九尺2間の借家を、自宅兼店がわりにしていた。祖母かつ、祖父美三郎を引き取り、生まれたばかりの私と母を抱え、文字通り寝る間も惜しんで働いた。いとこの細田正三さんが唯一の店の者、今で言う社員として住み込みで父を助けた。



私は、製材所の威勢の良い、鋸で木材を挽く音を聞き、オガ屑（木材の挽き粉）を吸って大きくなった。中学生の時代から 家業の製材工場を手伝い木材のイロハから教えられ、働くものの心得を、その精神を叩き込まれた。

江戸時代に隅田川の東の地、深川に「木置き場」を作ったのが、「木場」のはじまりだ。いらい日本一木材の集散地として栄えた。昭和51年に「新木場」へ集団移転し、今日におよんでいる。 その昔の「木場」の時代から今日の「新木場」の時代まで、今年で足掛け79年が、細田の歴史だ。

150号 カリフォルニア・ワインー1

もと、木材業でいまは、ワイン販売をしている知人がいる。かれのワインへの造詣とかける情熱は実に素晴らしい。現在72歳22歳でこの道に入り、飲んだワインは、本人の弁いよると、10万本と称している。一日あたり6本弱飲んですることになる。倉庫には各国の名酒8000本を常時在庫し、ワイン倉庫で、お客様を呼びワイン会をするのが無常の喜びとしている生粋のワイン子だ。彼のワイン倉庫パーティーに訪れるお客様は、著名人が多く出入りしている。倉庫のほかどこでも、お客様のお好みで、例えば、ワイン会の店として、寿司、懐石、うなぎ、天麩羅お料理に合わせた店でワイン会を開く。

カリフォルニアワインの最高品といわれるものは、スタグリーン・ファミリー・ヴィンヤードのダブル・マグナムで、3リットルボトル、3本で110万ドル（約1億円）で落札された伝統的な、カルトワインだ。セカンドラベルの「サラス」は、オバマ大統領の就任パーティー使用されている。カリフォルニアの、スタグリーン・ファミリーのワイナリーオープンの、披露パーティーには、クリントン元大統領が出席した。ブレア英国首相、ロッキンガムクリステナ・アギランなどが、スタグリーンのワイナリーでパーティーを開催している。雑誌 セオリー 参照

151号カリфорニア ワインー2

なぜカリфорニアワインがよいのか？日本でのワインのシェアは、フランス製が85%圧倒的なシェアを誇っている。しかし、品質のコンテストでは、カリфорニアワインが断然強く、06年の記録は、一位～五位まで、トップを独占している。

フランスでは、ブドウ栽培から、役人が取り仕切っている。土地と銘柄指定、ハウス栽培禁止、違反者生産停止などの規制でブランドを守り、差別化を図っている、

しかし、葡萄は天然物であり、その歳の気候変動により出来不出来あり、完全な高品質による産地ブランド化、差別化が出来ず、美味しいワイン増えている。ここにフランスワインの欠点がある。

フランスに対してカリфорニアでは、土壤改良まったくの自由であり、何をしても規制は皆無だ。栽培者は、自由に土壤を改良して、もっとも、葡萄に適したものに仕上げる。

一例をあげれば、3mから5m土を掘り下げ、石、砂利、砂を入れる。表面にはマウンド付け、水が上には多め、下に少なめにいきわたるように、土地の形まで改良する。露払いには扇風機を用い、大型の電熱器を持ち込んで霜をとる。徹底的な、コンピューター制御で管理している。

決して、量産しない、年12本いりを、6000ケースほどの生産量で、カルトワインの地位を保っている。彼に、最高の3本はと問えば、ウィリアムファーラン製の、やや、インクくさいが、味と香りが強いハーランエステートを一番にあげる。次に、初めて飲んだら感動する、甘く、柔らかく、非常に繊細の、スクリーニング・イーグルには、一本10万円の値がつく。三番目は、女性ヘレン・ターリワイナリー製で、香りは強いが、味まろやかでバランス絶妙のマッカーシー・ピノ・ノワールがお勧めだ。

no one can argue with him ワインについては、誰もかれと議論できないというほどの、ワイン通だ。カリфорニアワインの素晴らしさを紹介した。雑誌 セオリー参照

第31回全国ツキ板展示大会

第31回全国ツキ板展示大会は、4月22日から4月24日までの3日間、静岡市ツインメッセ静岡で開催した。100年に一度といわれる不況の波を受け、開催が危ぶまれたが、地元の若手橋本卓也理事長の静岡ツキ協同組合が実行団体となり、全国から優良品のツキ板が続々と入荷し、出品者は全国から23社、展示数約1千点、そして100万平方メートルが出品した。優良ツキ板1000点のうち、加工技術賞を含めた審査対象25点、審査委員11名の先生方により、優良ツキ板賞16点、加工技術賞4点が、厳正な審査の結果選出された。農林水産大臣賞は杉柾目とラーチの板目が選ばれた。出品内容は、圧倒的に白物のタモ、ホワイトオーク、楳などの広葉樹が圧倒的に多く全体の66%を占めた。次は、ウォールナット11%、チーク7%であった。優良品には、秋田杉吉野スギが入賞した。最終日に行われた入札会で関係者の努力により1億7千万円を売り上げた。不況時の大会としてはよくぞ頑張ったといえる好成績である。関係者の努力に敬意を表する次第です。一方今回から、ツキ板の新しい使い方として若手経営者より提案した天然主義（Realism）大賞—天然—ほんものへの飽くなき追求—として、35点が2X8の化粧合板にして出品された。廃棄されるツキ板を、デザインによって生かし、自然、天然のよさをいかし生活に潤いをもたらすものとして評価された。今までの、長尺、直線、無節、無傷の評価から、短尺、曲がり、有節、有傷、色むらなど自然そのままの主張を前面におしだし、一般見物客は勿論のこと、地元テレビ、一般紙が取材に訪れ話題になった。最優秀賞は、クリエイーテブ・ラインウッド（エンジ横柾）と名づけた製品だ。ツキ板をNCルータで彫刻したもの、長さの長短で、陰影を表現し、ランダムな石張りを、イメージした素晴らしい作品だ。写真参照　ツキ板の新しい使い方の可能性を秘めた展示大会として、意義深いものであった。

詳細は全天連　TEL　03-3501-4021　FAX　4023へお問い合わせを

153号

小野川温泉

山形県米沢市の周辺は自然の宝庫だ、北は蔵王の山々、南へ下がれば吾妻連峰をこえて会津へ、国道121号で大峠を越えれば、ラーメンで有名な喜多方の里へでる、東は宮城県仙台へ抜けることが出来る。四方山また山の山国とはいえ、米沢盆地は、四季折々の美しい自然に囲まれ人口9万人、戦国大名上杉家の城下町、今年のNHK大河ドラマ「天地人」の舞台として脚光を浴びている小都市だ。米沢市から南へ車で約30分ほど走ると小野川温泉がある。置賜地方の奥座敷として有名な温泉場だ。歴史は古く1200年前に小野の小町が、父を探して京都からの旅路に、病に倒れた時、夢に告げられた靈泉。小町は靈泉につかって病を治癒し絶世の美人に生まれ変わったと伝えられている。湯の成分は、硫黄、塩分メタケイ酸リチュウムなど含んだ中性である。健康と美容にはぴったりの温泉だ。NHKのタメシテ合点にも紹介され科学的にも証明された美肌効果間違いなしの温泉だ。このあたりは、近くには白布高湯温泉、有名な天玄平スキー場が有名だ。沢を流れる川が、いくつか合流してやがて最上川に注ぐ。小野川温泉は最上川の源流の一つ、大樽川が小野川となって町の東側を流れている。旅館総数18軒のこじんまりした温泉街だ。読者の皆様一度訪れてみてはいかがですか、お徳な料金と、心憎いサービス、そして周囲の風景に満足されることと思う。ご当地もご他分にもれず、天地人を最大限に利用している。お土産のお菓子、お酒、子供用のグッズなどあらゆるところに、ご先祖さまを、担ぎ出し仕事にしようとする商魂の逞しさを垣間見た。我々ももっと、なんでも仕事にする、ガツツが必要と感じた次第だ。

富岡八幡本社 二之宮巡幸

8月16日お盆休みの最終日富岡八幡宮の本社二之宮神輿巡幸の、担ぎ手としてヨシ一丁やるぞ、「年甲斐のないのに」「怪我したら」「無理するのは」などの反対を押し切って担いだ。

今年はかけ祭りのため、二ノ宮神輿一基だけの巡幸しかも、地元部单位の担ぎ渡しだ。各町50人の、担ぎ手として、56町2800人総代ほか関係者をいれて延べ3000人をこえる人数で、各町を威勢のよいワッショイで練り歩き祭りを盛り上げた。

年甲斐もなく参加し、周囲の若いものから励まされ、町境の、スタートからハナ棒のトップを貰い元気にワッショイで担ぐことが出来た幸せ者である。

年々若者の参加が少ないといわれるが、そんな心配ご無用と、大勢の若者、特に若い女性が祭りを盛り上げた。

いったいエネルギーはどこから出てくるのか。日本人にはこんな大きな力があることを再確認した次第。

我々は、100年に一度の危機などと、成績不振を正当化し、甘えているのではないか?

このエネルギー、このモチベーションが人生の原点ではないか“日々の仕事もかくあるべし、このエネルギーは個々人の気持ち次第となれば、なんとしてもエネルギーを取り込むことが出来る”と確信した次第である。

尚、中野営業所勤務の福井陸士君は、東陽6丁目若陸会長として元気に神輿を先導大活躍したことをお知らせする。



CEOメッセージ155号 江東区三つの大きく楽しい夢

江東区は、三つの大きく楽しい夢がある。ひとつは、東京オリンピックの招致だ。競争相手は、オバマ大統領の地元シカゴ、スペインの首都マドリード、南米ブラジルのリオデジャネーロだ。強敵揃いだ。東京オリンピックといつても、日本のオリンピックであり、七年先とはいえ、ここで決まれば、日本として、国民も、都民も、そして競技施設などが集中している江東区民にとっても大歓迎だ。全国民一丸となって、招致しなければならない。二つ目は魚河岸豊洲移転だ。一部反対者は、現状で営業を続けながら、少しづつ建て直すとしているが、老朽化したアスベストが、危険であり、営業しながらでは、20年かかる試算があり非現実的だ。土壤改良に金はかかるが、これが一番コストかからず、安全で、魚河岸が存続の現実的な案である。世界の魚河岸が江東区の豊洲にくることは大歓迎だ。三つ目は、江東区民永年の悲願である東京メトロ地下鉄 豊洲から半蔵門線への乗り入れだ。江東区をはじめ江戸川墨田葛飾足立荒川などの周辺区や、埼玉千葉県などから築地へ、買い付け関係業者の交通アクセスの確保、更に墨田区観光の目玉、東京タワーも同様のアクセスが必要となつた。いよいよ、江東区民悲願の南北線開通のお膳立てができた。今年着工すれば、2016年のオリンピックまでにとの試算あり、これで三つの大きな夢が出揃つた。なんとしても、実現したい大きく楽しい夢である。

155号 新木場に木の殿堂

7月5日、新木場駅前に新しい木材会館が竣工した。東京木材問屋協同組合が、木材の需要拡大の起爆材として、木材業者の智恵と伝統的工法と、建築業界最先端の技術を組み合わせたものだ。内装に、そして外装にも、その上一部構造体にも使用し、日本で初めての画期的な建築物として注目を集めている。正面の外壁には、桧の無垢材を、縦割りのボリュームゆたかに配置、混構造の無機質なコンクリートを圧倒、木の良さを際立たせている。西側の壁には、各階に桧無垢材テラスを張り出し、外枠と一体化したバルコニーを形成した。最上階の7階は構造躯体も全て木で固めている。内部の各階には、ふんだんに使った桧の香りが満ち溢れ、来場者を歓迎している。圧巻は7階の大ホールだ。屋根に使われている大梁は、全長27メートル、12センチ角を組み合わせ、日本伝統工法による木栓をはめ込んだ「追掛け大栓継手」である。互いに、力を合わせて、強度がでる仕組みの継ぎ手工法であり、正に木の殿堂としての偉容を誇っている。使った木材は、約1000立方メートル、都会の真ん中に、約7ヘクタールの森林が出来たことになる。CO₂を長期間固定する都会の森林、環境にやさしい木材は、木材需要拡大の起爆材として期待されている。

主たる仕様

建築面積：1011.26m² 延べ床面積：7582.09m² 階数：地上7階地下1階



156号 集成材造りの武道館

文科省は、平成21年度当初予算・補正予算で中学校の武道館の整備を推進している。これにともない日本集成材工業協同組合（日集協）では、設計・部材・工事業者の紹介などを積極的に行っている。この一環として、8月24日、集成材造りの武道館と、幼稚園の視察を企画した。林野庁の係官はじめ、マスコミ、設計関係者、日集協組合員などが多数参加し、視察会を盛り上げた。

埼玉県上尾市の木造武道館は、平成15年8月に開館、平成16年の国体の武道場として使用している。敷地面積：15,687.46m²、2階建て延べ床面積：9,568.12m²、鉄筋コンクリート造、一部木質構造、柔道剣道弓道相撲場など、七つの武道場、観客席2,320席を有し、総工費56億円をかけて、建設した埼玉県立武道館である。



注目すべきは、七つある道は、埼玉県産杉材約2万本を資材として約400立方メートルの集成材を生産、大屋根架構部分に使用している。この集成材を長さ9尺4本、高さ4尺5寸の柱4本部材を単位とし、格子に組み上げながら頂点に向かって積み上げ、登り梁で連結した立体格子架構造である。わかりやすくいえば、4畳半を組み上げ頂点に向かって6段に積み上げたものだ。

凄いところは、全て、同一寸法である。集成材の断面は、120ミリ角、長さは2700ミリ、高さは1,350ミリである。したがって、集成材メーカーとしては、同一寸法で、作業性も歩留まりもよい。

施工する側も、よい仕事をすることが出来た。モット言え、製材所も品質向上と作業性のアップでコストダウンすることが出来た。原木を提供した山の業者も、2万本調達のために、二倍三倍の原木を必要とした、原木の時点での寸法不向き、歩留まり悪いものは、通常の製材用として仕分けされた、山も製材も集成材も施工もすべてよく、一番よかったのは、素晴らしい武道場を作った発注者の埼玉県だ。

木の香りが漂い、神聖な雰囲気の武道場、青少年の体育健康と情操教育に最も適していると考える。各地でこのような武道場が数多く建設され、木材が、集成材が、大量に使われること。

この武道場のように、モジュール化部材化すれば、コストダウンし、品質の安定した工業木材としての集成材が、大量に使われ、木材の需要拡大の起爆剤となり、更に景気回復へつながることではないか。